

令和元年度 活動報告

- ① 高齢者在宅生活支援事業 ⇒ 令和元年度は主だった活動なし。
② 地域子育て世代支援事業 ⇒ 令和2年度からは「福祉部」に再編。

③ 農業振興・特産品開発事業(わくわく農業チャレンジャー)

弱体化しつつある油木百彩館の抱える課題を、生産者・出荷者の立場から洗い出し、協力の方向性を探る。

部会員 12名(農畜産業を営む個人・商業に携わる個人)

○第1回会議 令和2年1月22日

【議題】百彩館の活性化協力 自分たちが出来る事

百彩館の現状の把握と期待する形を話し合う。

○第2回会議 令和2年3月24日

【議題】自分たちが出来る協力は何か。

1. 空きスペースの利用

空いている喫茶エリアについて、利用方法の提案と実施者の誘致

2. 農産物の効率的な売り場への分配

現在展開している農産物売り場(百彩館・182ステーション・エブリイ・ふくふく市など)に、商品の偏りを解消するための効率的な配分方法を確立し、1店舗当たりの売り上げを増加させる。

3. 賑わいの創出

百彩館が国道182号と言う大動脈に面していることから、通行する車・二輪車等へ賑わいをアピールする。

軽トラ市・フリーマーケット等の百彩館駐車場での実施。

今後の展開

「1 空きスペースの活用」・「2 農産物の効率的な売り場への分配」については、来年度から、より具体的な内容で協議を進める。

3 賑わいの創出については、年数回の軽トラ市の開催を計画する。初回は大型連休頃を予定。

○源流の里しんさか 特産品原料の栽培促進

源流の里しんさか 振興会事業への協力。開発する加工品「辛うてごめん」の原料生産者の確保が困難な現状を受け、油木地区内全域での生産者の増加を促進する。

方法：原材料 唐辛子 苗の頒布 苗は源流の里しんさかで用意(約 600 株) 6月
集荷場を油木コミュニティセンター前に設置 期間：8～11月

結果：地域外新規生産者 7名(内3名は部会員及び職員)

地域内新規生産者 1名(内1名は部会員) ※参考：総生産量 496.5kg

今後の展開

協働支援センター主催事業は一旦終了とする。今後は振興会単体の取り組みとして戻り、今年度の新規参加者に対し個別に継続のアプローチを行う。

※令和2年度から「農商業推進部」に編成。

④ 農村環境維持・向上事業

高齢化に伴い耕作をあきらめる農地が広がりつつある。この状況の拡大は今後も避けられず、農地利用の受け皿である担い手の負担も増加している。担い手が農業経営を持続していけるよう、現在抱えている課題の洗い出しと解消策を考える。

部会員 7名 (担い手法人・農業企業法人・個人担い手)

○第1回会議 令和元年8月23日

【議題】課題の洗い出し・取り組む課題の絞り込み

解消すべき課題 (高齢化による)労働力不足・農作物への鳥獣被害

○第2回会議 令和元年11月8日

【議題】対策の検討

- ・労働力不足対策 ラジコン草刈機の利用・防草ネットの活用 制度として導入
- ・鳥獣被害対策 罾猟免許保持者の増加を促す 狩猟免許(初心者)講習の町内開催

○第3回会議 令和2年1月31日

【議題】企画の立案・導入までのフローの決定

1. ラジコン草刈機導入事業

既存の草刈機(刈払い機・自走モア・乗用モアなど)よりも労働力の軽減が図れ、また、危険な畦畔での作業の安全性向上も期待できる。機体は購入の他、農協にてレンタルも可能。

導入方法：以下の案について検証する

- ・機械購入(+オペレーション講習) 有償にて利用者に貸し出し
- ・農協レンタル機を斡旋 レンタル料の補助
- ・機械購入+オペレーターの派遣 有償にて作業請負
- ・レンタル機+オペレーターの派遣 有償にて作業請負

○検証試験の実施 令和2年2月19日

検証すべき点を洗い出し、レンタル機を用いて検証試験を行った。

検証試験に際しては JA 福山市・全農ひろしま・中セキ中四国の協力により、試用機のデモンストレーションとして実施した。

今後の展開

検証試験を基に導入による費用対効果が得られるのか議論する。その結論に基づいて、持続可能な導入のあり方について検証を重ねる。

2. 防草ネット導入支援事業

勾配の強い畦畔の草刈りにかかる労働力軽減の効果を狙い、防草ネットの導入を支援する。雑草を枯らさないで生育を抑えるネットを使用。勾配の強い畦畔で起こりやすい土砂の流亡を防ぎながら雑草の抑制を行うことが出来る。以下の導入方法を検証する。

導入方法：購入補助・請負施行（施工費の補助）

どの程度費用対効果が得られるか、施工による検証試験を行う。（来冬～1年間）検証試験の候補地の選定を行った。

今後の展開

- ・検証項目の洗い出しと試験の実施
- ・導入方法の検討と導入に至るまでのフローの決定。

3. 狩猟免許(初心者)講習の町内開催

鳥獣害対策の一環として、畏猟免許保持者の増加を促す。

今後の展開

狩猟免許(初心者)講習会の実施及び受講の呼びかけ。
わな架設講習会の実施

4. 動物駆逐用花火安全講習会

農作物に被害を与える鳥獣の追い払いに有効な花火の利活用を促進するため、使用に際し必須となっている安全講習会を実施した。

参加者：41名

○花いっぱい運動 助成金

環境保全の一環として、自治振興会が花・樹木を植える活動について、その実費を5万円を上限に助成する。

応募者なし。

<農村環境維持・向上事業>

令和元年度 主な対象事業経費(実績)

動物駆逐用花火安全講習会	288,590円
(町補助金収入 168,800円・自己負担金収入 119,770円)	支出合計 288,590円

※令和2年度から「農商業推進部」に編成。

⑤ 体験・交流推進事業

○第1回会議 令和元年11月26日(参加部員3名)

【議題】「一緒に未来を見つけようプロジェクト in 油木」要綱及び実施方法の見直し(背景)平成30年度 実証実験の実施と令和元年度 事業の採用実績

- ・「一緒に未来を見つけようプロジェクト in 油木」とは
油木地区と都市部を結ぶ体験交流会を企画する団体及びその企画を募集し、センター事業として採用する。採用期間は最長3年とし、年度ごとに申請を要する。

- ・平成30年度 実証実験の実施と結果

実証実験対象：小野の将来を話し合う会「小野の美味しいごはんを食べる会」
東油木自治振興会「稲刈り交流会」
油木協働支援センター「油木の未来交流会」

結果：各々のイベントにおいてアンケートを実施し、その結果は概ね良好な反応であったが、3つの企画の内2つは既存のイベントであったため、本プロジェクトとして実施した効果は顕著には見られなかった。

- ・令和元年度 事業の採用実績

募集期間：平成31年4月1日～令和元年10月31日

採用：源流の里しんさか「内海町の将来を考える会との交流事業」

今後の展開

新たな部会員で実施チームを編成し、「一緒に未来を見つけようプロジェクト in 油木」の実施及び募集要項を改定する。それをもって次年度内に対象を公募し、採用した団体の企画を次々年度以降に実施する

- 「油木の未来交流会」推進チーム 部会員以外 任意の3名
 平成30年度に第1回目の実施を行った住民活動推進啓発のためのワークショップ
 「油木の未来交流会」について、第2回目の企画を計画する。本年度に1回の話し合いを行った。人口減少に伴い同世代間の接点が少なくなっている青中年層(30～50代)を主対象に、地域の魅力を再発見させ、且つ、気軽に会話ができる交流会を企画。
 令和2年度中の実施を予定。

<体験・交流推進事業>

令和元年度 主な対象事業経費(実績)

「一緒に未来を見つけようプロジェクト in 油木」採用事業実費	1件	79,000円
		合計 79,000円

※令和2年度から「地域づくり部」に編成。

⑥ 田舎体験・移住促進事業

- 住民参加型ウェブサイト「油木生活百科」の運営
 サイトの有効的な活用を考えるにあたり「油木生活百科 運営委員会」を組織。
 住民に広く委員会の参加を促し、サイトの活用や参加登録の促進について話し合いを行う。(年度内2回)

今後の展開

運営チーム「地域の情報を集めましょう会(仮)」を結成し、サイト内の情報の充実を図る。

- ハンナゴスペルコンサート 令和元年9月1日
 住民に気軽に文化活動に触れる機会を提供し、魅力ある地域の創生を促す。
 福山市に拠点を置くゴスペル合唱団「ハンナゴスペル」を誘致し、油木コミュニティセンター2階ホールにてコンサートを開催した。

<田舎体験・移住促進事業>

令和元年度 主な対象事業経費(実績)

油木生活百科 ホームページサーバー維持費	22,110円
ハンナゴスペル招致委員会 広告協賛	10,000円
合計 32,110円	

※令和2年度から「地域づくり部」に編成。

⑦ いちば再生事業

油木の中心街である市場地域の活性化を促進することで、油木地区の賑わいを再生する。 部会員 10名

○第1回会議 令和元年11月13日

「にしかわ」の利用状況から空き家の更なる活用について話し合った。

市場地域の現状について情報交換を行った。

○第2回会議 令和2年2月3日

第1回のお話を踏まえ、以下の提案をする。

- ・空き家活用方法の検討と利用者の誘致
- ・「にしかわ」を中心とした住民の情報交換の場づくり
- ・「にしかわ」でのイベントの実施

今後の展開

「にしかわ」でのイベントの実施について具体的に企画する。

◇「にしかわ 運営委員会」

住民が主体的に「にしかわ」の運営に参画出来るよう、話し合いの場を提供すると共に、発案された計画を話し合い、企画し、実施する。

8月に第1回目を行い、広く開催の周知を行った。

それにより以下2企画においてチームが結成され、月1～2回のミーティングを行っている。

- ・油木のまち歩き企画
油木の魅力的な要素をテーマに沿って探し出し、まち歩きを企画する。
にしかわを拠点とすることで周知度を向上させる。
- ・懐かしの写真展企画
懐かしい昔の写真を集め、にしかわにて写真展を開催する。

今後の展開

「油木のまち歩き企画」「懐かしの写真展」企画の実施。

◇化石魅力化プロジェクト

故西川功氏の遺した化石標本を活用し、油木の魅力を創造する。

住民参加のワークショップ「化石魅力化の集い in にしかわ」を月1回開催した。

今後の展開

化石展示事業を展開すると共に、住民参加型のワークショップの開催を継続する。
フィールドワークを含めた油木地区の地形や地質、自然環境を併せた魅力の創生を

図る(ジオパーク的構想)。

<いちば再生事業>

令和元年度 主な対象事業経費(実績)

「にしかわ」運営委員会 (資料代・消耗品など)	11,483 円
化石魅力化プロジェクト	
化石魅力化の集い in にしかわ(絵具・三脚等)	9,891 円
化石展示事業(寄贈図書荷造運賃等)	9,912 円

合計 31,286 円

(化石魅力化フィールドワーク バス借り上げ料 38,080 円 生涯学習事業費支出)

※令和2年度より

いちば再生事業は「地域づくり部」に編成。

にしかわ運営委員会は「にしかわ運営事業」

化石魅力化プロジェクト

化石魅力化の集い in にしかわ は「生涯学習(ゆきなび)部」

化石展示事業は単独事業とする。

⑧ 生涯学習(ゆきなび)事業

○ゆきキッズクラブ(放課後子ども教室)

土曜日を中心に児童の学びの場、遊びの場、体験の場を提供することを目的とする。

教室名	回数	延べ参加人数
料理教室	6回	175人
粽・柏餅作り教室	1回	29人
お茶教室	4回	67人
そば打ち体験教室	1回	17人
こんにゃく作り体験教室	1回	18人
自然を楽しむ会	3回	29人
化石魅力化フィールドワーク	1回	12人
楽描き教室	2回	16人
伝統文化継承事業	1回	8人
工作教室	2回	25人

○大人の教室

自由に学習する機会と場所の提供や、受講者間のコミュニケーションを図ることを目的とする。

教室名	回数	延べ参加人数
料理教室	3回	39人
パン作り教室	4回	31人
みそ作り教室	1回	15人
そば打ち体験教室	2回	8人
豆腐作り体験教室	1回	8人
手芸倶楽部	3回	17人
パソコン教室	10回	41人
スカッシュ教室	5回	90人

今後の展開

例年を踏襲し、加えて新たなニーズを取り入れられるようヒアリングに努めていく。

◇伝統文化継承事業

第1回部会(神祇チーム)8月9日

神儀の映像を保存するためチームを結成。専門部会としての動きは初回までとし、試験的に西道の祭りを撮影し、それを基に本番の撮影に向けて2回の打ち合わせを行った。

また油木の祭に女性を中心とした神輿を出し、参加者を広く公募した。

ゆきキッズクラブの伝統文化継承事業教室として、しめ縄作り教室、神楽鑑賞会を開催。神石高原中学校の「地域ふれあい行事」の一環として、地域住民に講師を依頼し、しめ縄作り教室を実施した。

今後の展開

神儀の映像保存については、話し合いを重ね、年2件程度の撮影と編集を行う。

⑨ にしかわ運営事業

利用数(のべ) 2787人(大人 2232人 中学生 8名 高校生 66名)

団体 101団体

⑩ ドローン地産地防プロジェクト 資料別添

今後の展開

購入機体の更なる自主防災への活用について、地域と育成された担い手による話し合いの場を設ける。